

2023 年 10 月 18 日

## 2023 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 社会福祉法人鳥取こども学園

ホーム名 自立援助ホーム 鳥取スマイル

代表者・役職名 氏名 竹中 愛彦

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 申請事業の名称

2023 鳥取スマイル季節外れの夏休み～スクリーンの中から実体験へ～

## 2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

自立援助ホーム鳥取スマイルは、鳥取こども学園 2 つ目の自立援助ホームとして 2005 年鳥取県倉吉市に倉吉スマイルが創設。2014 年に鳥取市西町に移転され、鳥取スマイルに名称変更し、現在に至ります。義務教育終了後、様々な事情で家庭にいられなくなり自立しなければならない青少年たちの相談に乗り、現在の大変厳しい社会情勢の中で自立する強さと優しさを身につける事を目的に設立され、運営されています。

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

時代の変化によりスマホやテレビから簡単に情報を得られるようになりました。そして、それらを画面越しに見る事で満足してしまう、実際に体験することは様々な問題から難しいと諦めてしまう子どもたちの姿が背景としてありました。今回のプロジェクトでは、日頃体験できないような経験を子どもたちに実際にしてもらいたい。そしてこの経験がこれからの未来に繋げていけるのではないかと強く思い、本事業を実現したいと思いました。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

2023 鳥取スマイル季節外れの夏休み～スクリーンの中から実体験へ～

日程:9月25日(月)～9月26日(火)

参加者:ホーム寮生 5名 職員 3名

## 【25日】

9:00 鳥取スマイル寮 出発 →鳥取駅へ徒歩で移動

9:40 鳥取駅 出発 → 12:52 弁天営業所 到着 (高速バス)

13:15 JR 弁天町駅 出発 → 13:24 JR ユニバーサルシティ駅 到着

13:30～ ユニバーサルシティ駅周辺で昼食

14:30～ ≪ユニバーサルスタジオジャパンを満喫する≫

20:30 ホテルチェックイン

## 【26日】

7:00 起床 → 朝食、身支度等  
 9:30 ホテルチェックアウト → 通天閣へ徒歩で移動  
 10:00 ≪通天閣展望台を満喫する≫  
 11:30～ ≪大阪散策・自由行動≫  
 17:00 千日前ビックカメラ前へ集合 → なんば OCAT へ徒歩で移動  
 18:00 なんば OCAT 出発 → 21:00 鳥取駅前 到着（高速バス）  
 21:30 鳥取スマイル寮へ帰寮

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

この度の申請事業には鳥取スマイルに入所している5名の子どもたちが参加しました。この1つの旅行をきっかけに、子どもたち一人一人が、実際自分で体験が出来た事。これが一番大きな効果だと感じました。実際に子どもたちの旅行を通しての感想の中には、「初めての経験、普段の生活の中では中々出来ない経験をする事が出来てよかった、また行きたい」という言葉がありました。参加した子どもたちが旅行を通して、そのように思えたという事が成果だと感じました。実際に体験をすることにより次の展開や希望、やりたい事が生まれていきます。そしてその実現の為に必要な事(継続して働くこと、節約する事、計画を立てること等)への気づきが育まれていくと信じています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

この度の申請事業を通して、子どもたちの次のアクション(ここへ行きたい！これをしてみたい！など)、これまでは諦めていた事への“やってみよう！”が生まれてくる事が目標、課題となります。したがって、この度の申請事業による旅行が思いっきり楽しいものであったという子どもたちの感想、端から諦めていたことを実体験できた！という成功体験がとても大切な要素になると思います。また、この度の旅行計画の大枠を我々職員が設定して進めてしまったので、子どもたちの意見を拾いながら計画を立てる事も課題と感じました。その為にも我々が日々の関わりの中から子どもたちの思いを引き出す、興味関心を深められるような関わりをしていくことも必要であると思います。

今後の展望としては子どもたちからの“やってみよう！”の発信を拾い、また、引き出し、現実検討をしながらではありますが実践へと動いて行けるような働きかけ、我々職員も前向きに一緒になって楽しんでいくようにしていきたいと思っています。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



